

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

※黒字 定型事項 消さないで下さい。

※赤字 注意事項 提出時は削除して下さい。

※青字 例文 適切なものを選択し、必要に応じ、研究に合わせて修正して下さい。

以下、本文

研究協力のお願ひ

昭和大学江東豊洲病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

眼外から後方支持部を直接誘導する方法を用いた眼内レンズ強膜内固定術に関する研究

1. 研究の対象および研究対象期間

2018年1月1日から2018年7月31日に眼内レンズ強膜内固定術を受けられた方

2. 研究目的・方法

水晶体嚢がない眼球に対する眼内レンズ固定法として、従来、眼内レンズ縫着術がおよそ30年前から施行されています。しかし、縫合糸の断裂に伴う眼内レンズのずれや縫合糸の露出などの問題点があるため、眼内レンズ縫着術に代わる方法として眼内レンズ強膜内固定術という眼内レンズを強膜（白眼）に埋没固定する方法が行われるようになり、我が国でも急速に普及しており、一般的な方法となりつつあります。眼内レンズ強膜内固定術の手技は様々な方法がありますが、後方支持部を強膜に誘導するための眼内操作の難易度が高く、眼内レンズ光学部を眼内で大きく偏位させる必要があります。この問題を克服するため、後方支持部を眼外から直接誘導する方法（眼外法）の有用性が報告されており、この方法により光学部をほぼ瞳孔中央に位置させたまま眼外から後方支持部を直接誘導することができるため安全性が高く、手技を簡略化することが可能となります。今回、昭和大学江東豊洲病院において鑷子を用いて眼外法を施行した症例の検討を行い、その有用性を検討致します。

研究期間

2018年1月1日～2018年7月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、手術に至った原因疾患、術前・術後視力、眼圧、眼底所見、角膜内皮細胞密度、術中・術後合併症有無

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者：

所属：昭和大学江東豊洲病院眼科 氏名：浅野泰彦

住所：135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38 電話番号：03-6204-6000